

— まずはペーパーレス化の取り組みから。

「電子帳簿保存法の改正により、電子取引のデータについて紙での保存が原則でなくなった。それに伴い領収書や伝票に加え、社内書類などはすべてタブレット端末で保存・閲覧できるように

鷺尾 勝社長に聞く



「電力1割」削減効果、横展開へ

解工程にて導入した。例る。これまでは現場の担当者しか感覚的に把握できなかったようにきておらず、ブラックボックス化していた。そのため製品がいつ出来上がるか一部の人間しか分かっていない状況になっており、前後工程の間に口スタイムが生じていた。現在は受注して鑄込む現在、週に3〜4品の鑄造品を溶接しており、業者の負担を軽減している」

「在庫管理ではRFIDタグを付けて予備品や資材品の管理をデジタルで行っている。製品についても、外部購入品などDXの取り組みについて、ひとまずのゴ

でに最低1る。普通鋼は上部面の溶
週間、その接が可能で、ステンレス
後製品としなど特殊なものでも上部
て出荷でき面のうち角や側面であれ
るまでに1ば溶接できる」

ールを10合とすると
現在地は何合目か。
「およそ5合目だが、
あと2〜3年で山頂にた
どり着くとみている。シ

「オーダースystemがしているの、在庫や製

した。特に紙の削減に大も生産性向上の効果の大きく寄与したのは、立会が手ごたえを感じてい
検査時の説明資料。毎回「る」

「生産スケジュールの自動化により納期短縮につながれば鋼種別の生産量や納期など思う」

陳腐化していたが、この品の管理を改善していきたい。Owlnetを展開するの一手だ。直近から特に喜ばれており、

膨大な資料を印刷していた。現場の従業員からは――

製造工程のDX

どのパラメーターをシス
テムに入れば、製作工
——川崎工場の自動押
湯切断ロボット「AC

オーダー情報をEDIでは倉庫の無人搬送フォークリフト導入に向けた送信できるようになり、

『タブレット端末で説明した方が効率が良い』との声も出ており、個人的にはペーパーレス化よりも『Owlnet』を溶

程の計画が自動的に策定される。鑄込み後の工程におけるスケジュール自動も今年から取り掛か

「ACROSSでは現在、ROS」や溶接補修ロボットの稼働状況は。さまざまな品種において

場所を選ばずオンラインで投資も行う。1億円弱から予定だが、6年ほどあればコストダウン効果もオンラインでできるよ
で元が取れるだろう」